

令和6年度

「介護支援専門員のモチベーションを保つために」

アンケート考察編



一般社団法人 愛媛県介護支援専門員協会

調査研究委員会

## 1 はじめに

平素より、当協会への活動にご理解、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

また、この度は、年末年始のお忙しい時期にアンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

令和6年度、調査研究委員会では、「介護支援専門員のモチベーションを保つために」の調査を行いましたので、結果についてご報告します。

近年、介護支援専門員が本来の業務を超えた幅広い支援（シャドーワーク）をせざるを得ない状況や介護支援専門員不足が深刻化されています。当協会では、「介護支援専門員のモチベーションを保つために」はどうかすれば良いのか検証し、4つの項目（①シャドーワーク②やりがい③業務の効率化〈ICT〉④ハラスメント）について2年間かけてアンケートを行うことにしました。今年度は、①シャドーワークと、②やりがいについて実態を調査、分析し、情報を共有することで、今後の活動に活かしていきたいと思っております。

## 2 調査の目的

介護支援専門員の業務は多岐にわたり、利用者の生活を支える重要な役割を担っています。近年は、本来の業務を超えた幅広い支援(シャドーワーク)や介護支援専門員の高齢化、介護支援専門員不足（特に若い世代の介護支援専門員）が深刻化されています。本調査では、「やりがい」と「シャドーワーク」に焦点を当て、現場の現状を把握し、モチベーション向上のための選択肢を探ることを目的としてアンケートを実施しました。

## 3 調査方法

一般社団法人愛媛県介護支援専門員協会会員を調査対象とし、送付したQRコード、URLから回答を依頼しました。調査期間は令和6年12月から令和7年1月末までとしました。

## 4 調査結果の概要

各質問の全回答を単純集計し、考察については、一部クロス集計しました。

内容については、各々の理由、意見内容につきまして、ほぼ内容が同じものは集約させていただき、誤字は校正を行ない、掲載をしています。

### I 基本情報

Q1～Q4については、集計結果をご参照ください。

### II 質問事項

（居宅の介護支援専門員）

Q5 利用者や家族から契約書や重要事項説明書に記載している介護支援専門員の業務外のことを頼まれたことがありますか

【結果】

115 件の回 「はい」 87.8% 「いいえ」 12.2%

【考察】

およそ 9 割の介護支援専門員が業務外のことを頼まれ何らかの支援を行っています。身近に相談できる存在として期待されている反面、業務の範疇が曖昧なことも要因かと考えられます。

Q6 Q5 ではいと答えた方はどんな内容ですか

【結果】

101 件の回答 一番多かったのは、介護保険制度以外の行政への手続きや申請の代行、支援（86 名・85.1%）、次いで、モニタリングや定期的な安否確認を除く緊急訪問（82 名・81.2%）、サービス調整等に関わらない電話等への対応、時間外訪問（73 名・72.3%）となっています。その他の回答として、介護者本人の課題への支援（情報提供、入院手配）、生活支援（洗濯、掃除、買い物、ゴミ出し、電球の取替え）、権利擁護（成年後見制度、生活保護、クーリングオフ）、金銭対応（銀行同行、光熱費や通販の振り込み）、救急車への同乗、ゴミ対応などという意見があります。

【考察】

介護保険制度以外での必要な情報を提供するにあたり、それに伴って生じる手続き（成年後継制度・生活保護・クーリングオフ等）の代行や同席に時間を要すると回答した方が多くおいでましたが、ご利用者の権利を守るためには、必要なマネジメント業務と捉えることもできるため、個々によってシャドワークの認識の違いがあると思われます。また緊急対応は、すぐに連絡がとれる介護支援専門員に一報が入ることが、通例となっている可能性があります。継続的であれば、支援策を考えますが、一時的であれば介護支援専門員が対応したほうが早く解決するので、生活支援全般や金銭管理（銀行同行など）等を手伝っているのではなかろうかと推測されます。家族や支援者がいる場合は、ありがたい反面、意見の相違も生じやすく、調整等に時間を取られていると考えます。

Q7 業務外のことを行い業務の支障となったことはありますか

【結果】

115 件の回答 「はい」 79 名（68.7%） 「いいえ」 36 名（31.3%）

【考察】

およそ 7 割の介護支援専門員が業務外の対応をしたことにより、通常業務に支障をきたしています。いいえと答えた、残りの 3 割の介護支援専門員は業務の支障とならず、対応できています。地域別にみると東予 17 名/49 名、中予 9 名/36 名、南予 10 名/33 名が業務に支障をきたすことなく業務外のことに対応できています。年齢差や経験年数は特に差異は無かったので、支援の線引きや割り切り、連絡調整等のスキルが高いもしくは、社会

資源等が上手く活用できている可能性があります。

**Q8 Q7で「はい」と答えた方は、どんな内容ですか。**

**【結果】**

79件の回答 一番多かったのが 残業（66名・83.5%）、次いで予定変更による調整（64名・81%）、書類の遅れ（58名・73.4%）、休日出勤（48名・60.8%）と続く。少数意見の中に、利用者の緊急対応や精神的負担などという回答もありました。

**【考察】**

残業や、休日出勤して日中できなかった通常業務をこなし、書類の遅れを取り戻していることが伺えます。また、予定を変更する調整の電話などに追われた結果、そのようなことに精神的負担を感じていることも伺えます。時間が足りない、疲弊を感じるという悪循環が生じているようです。

**Q9 シャドールワークを断ることはできますか**

**【結果】**

115件の回答「はい」48名（41.7%） 「いいえ」67名（58.3%）

**【考察】**

シャドールワークを断れないと感じている介護支援専門員が6割を占めています。仕事に融通をつけながら対応していることが伺えます。

**Q10 Q9で「いいえ」と答えた方は、その理由は何ですか。（複数回答可）**

**【結果】**

67件の回答 一番多かったのが 他にお願いできるサービスがない(社会資源が少ない)（54名・80.6%）、次いで金銭の問題があり、仕方なく（46名・68.7%）、介護支援専門員の業務を円滑に進めていくうえで必要（38名・56.7%）、となっています。関係作り、理解が得られない、動いてくれる介護支援専門員・動いてくれない介護支援専門員と評価されると言う回答もある程度みられます。少数意見には、身寄りがない、他に動ける人がいない、生活に支障がでてしまう、行政が動いてくれないと言う回答もありました。

**【考察】**

限られた社会資源の中で、多くの課題に対応しなければならない状況にあることが伺えます。経済的な理由により、本来受けられるべきサービス自体での対応が難しく、足りない部分を介護支援専門員が担っている可能性があります。また、支援によって評価されるプレッシャーを感じつつ、関係性を作っていかなければならないために仕方なく対応していることも考えられます。高齢者の単身世帯や、支援を受ける家族がいないケースでは、身近な支援者として介護支援専門員の役割がより重くなっています。行政に必要な時に協力してもらうため、日頃より、情報を共有しておく準備も必要かと考えます。

**Q11 業務外のことを頼まれた時の上手な対応方法や社会資源はありますか**

**【結果】**

115 件の回答 「はい」 31 名 (27%) 「いいえ」 84 名 (73%)  
「はい」と答えた 31 件のうち 東予(14 件)・中予(5 件)・南予(12 件)という内訳になっています。

回答年齢 40 代 (6 名) 50 代 (12 名) 60 代 (13 名)

経験年数 16 年～20 年 (11 名/30 名)、11 年～15 年 (10 名/30 名)、20 年以上 (5 名/20 名)、6 年～10 年 (4 名/21 名)、1 年～5 年 (1 名/17 名)

**【考察】**

業務外のことへの対応は、経験年数 10 年以上の 40 代～60 代の介護支援専門員は対処方法を持ち合わせているようです。経験年数を重ねると、様々な課題へ対応した経験も増え、どうやって動く、どこにつなぐかと言った対処ができていると考えられます。

**Q12 Q11 で「はい」と答えた方は、対処方法は何ですか**

**【結果】**

28 件の回答 回答内容はアンケート結果をご覧ください。

- ・地域資源・社会資源の活用 4 名 (東予 1 名・中予 3 名)
- ・介護保険外のサービス活用 (東予 2 名・中予 2 名・南予 1 名)
- ・他の人への依頼・調整 (東予 1 名・南予 4 名)
- ・介護支援専門員の業務範囲の明確化・説明 (東予 5 名・南予 5 名)
- ・他機関・サービスへのつなぎ (東予 3 名・南予 1 名)

**【考察】**

中予は地域資源や社会資源、介護保険外のサービスにつなげると回答した人が多く、つながられる資源が東予や南予に比べて充実していると考えられます。南予は親族や身近な人に協力してもらおうと言った回答が東予や中予に比べて多く、人とのつながり (マンパワー) が充実していることが伺えます。東予は、他機関・サービスへのつなぎと回答された方が多く、他機関との連携がしやすい環境にあると推測されます。また、東予や南予の介護支援専門員は介護支援専門員の業務範囲の明確化・説明をしっかりと行い、理解を得る努力をしている様子が伺えます。

**Q13 シャドールワークは必要と思いますか**

**【結果】**

115 件の回答 「はい」 60 名 (52.2%) 「いいえ」 55 名 (47.8%)

**【考察】**

意見がほぼ半数で分かれている。正解がないため、シャドールワークのとらえ方にそれぞれの考えがあることが推測されます。『いいえ』思っているながらも、実際は支援している方が多数 (Q5, Q7, Q9) いるのも現状です。

**Q14 Q13 で「はい」と答えた方、その理由は何ですか。(複数回答可)**

**【結果】**

60 件の回答 一番多かったのは、利用者が困るから（45 名・75%）、次いで代替えのサービスが無いから（43 名・71.7%）、家族が困るから（24 名・40%）と続き、緊急性、支援者不在、複合的な課題（独居、お金なし、支援者無し）での対応という少数意見がありました。

**【考察】**

利用者や家族が困るからや、支援者がいないからというのは、専門職としての責任感や倫理観が働いている可能性があります。対応する内容が多様でサービスや資源が追いついていない現状も見受けられます。あえてシャドワークを行って信頼を得るといった戦略的な活用をしている少数意見もありました。シャドワークと言うだけに、ケアプラン作成やモニタリングと違い、名もなき評価のされない仕事であり、疲弊を感じてしまうことも多いですが、止むに止まれず致し方なく、介護支援専門員が対応していると見受けられます。我々が思っている介護支援専門員の役割と利用者・家族、行政、サービス事業所、医療機関等が求める介護支援専門員の役割に差異がある可能性も考えられます。

2 （施設の介護支援専門員）

Q15 介護支援専門員業務以外に兼務している業務はありますか。

**【結果】**

3 件の回答 「はい」3 名

**【考察】**

回答数が少なく、施設の介護支援専門員の愛媛県介護支援専門員協会の会員も少ないと予想されます。しかし、施設の場合、ケアマネジメント業務だけというのは難しいと考えられるため、3 件の回答ではありますが、全員が兼務しているという結果になっています。

Q16 Q15 で「はい」と答えた方は、どんな業務をしていますか。（複数回答可）

**【結果】**

3 件の回答 介護職と兼務 2 名、看護師 1 名

**【考察】**

介護職 2 名、看護師 1 名の結果になっており、ケアプラン作成だけでなくベースの資格（介護福祉士、看護師など）を兼務することが多いのが特徴となっている。また、施設内に勤務する他のスタッフとの連携が欠かせないので、入居者のケアプランの品質向上と同時に、スタッフの働きやすさや仕事への満足度を向上させるために、組織内の連携やスタッフの支援にも注力していると考えられます。

Q17 Q15 で「はい」と答えた方は、どんな内容ですか。（複数回答可）

**【結果】**

施設入居者の介護 1 名、日常的な介護業務 1 名、看護業務全般 1 名

**【考察】**

Q16と同様に介護業務や看護業務を行っているという結果になっています。施設によって介護支援専門員の役割も異なっており、人員配置によって兼務の量も変化していくと考えられます。例えば、グループホームであれば介護職の仕事を多くこなすほか、施設の運営や介護スタッフの管理、予算管理など広範な業務を担当することが求められる場合もあります。特別養護老人ホームや老人保健施設等の施設では、生活相談員、介護職員、看護職員、在宅復帰に向けた調整などの仕事も兼務する場合があります。介護付き有料老人ホームでは、運営する企業によって提供されるサービスや費用、運営方針も異なる為ケアプラン作成以外にも施設独自の仕事を求められることも想定されます。そのため、施設によって介護支援専門員の立ち位置が異なり、兼務が当たり前になっているのではないかと考えられます。

Q18 業務外のことを行い、業務の支障になったことはありますか。

【結果】

3件の回答 「はい」1名 「いいえ」2名

【考察】

3件の回答中、2名はいいえの答えから業務の支障とは考えておらず、兼務することが当たり前になっていると考えられます。

Q19 Q18で「はい」と答えた方はどんな内容ですか。（複数回答可）

【結果】

書類遅れ 1名 予定変更による調整 1名

【考察】

1名の回答で、書類の遅れや予定の調整などとの回答から業務に支障があると判断されます。しかし、業務外のことで支障が生じるのは施設も居宅も同様であると考えられます。ただ、施設の中で業務が完結できることから、大きな支障とは捉えていない可能性もあると推測されます。

Q20 シャドーワークを断ることはできますか。

【結果】

「いいえ」3名

【考察】

全員が「いいえ」の回答で、シャドーワークを断ることができないと答えています。施設の方が断り難いイメージがあり、介護支援専門員とベース職が曖昧になっているのではないかと考えられます。また、他の職員の介護支援専門員に対する理解が十分でない可能性もあると推測されます。

Q21 Q20で「いいえ」と答えた方、その理由は何ですか。（複数回答可）

【結果】

施設職員不足 2 名

介護支援専門員以外の仕事をするのが当たり前になっている 1 名

**【考察】**

どの施設でも人材不足は、課題となっていますが、人手不足にも限界があります。施設内で賄われることがあれば、サポート体制は確立しやすいのではないかと考えられます。ケアマネジメント業務と現場との兼務をすることが当たり前なことだと思いき業務にあたられていることに頭が下がる思いです。ただ、施設も居宅もケアマネジメント業務は負担の多い仕事だと考えられます。

**Q22 業務外のことを頼まれた時の対処方法がありますか。**

**【結果】**

「はい」 2 名 「いいえ」 1 名

**【考察】**

「はい」が2名で「いいえ」が1名の結果になっており、施設の人員や体制にもよると考えられますが、少ない回答ではあるものの、半分以上の方が何らかの対処方法があると推測されます。

**Q23 Q22 で「はい」と答えた方の対処方法は何ですか。**

**【結果】**

2 名の回答 ・自分で時間を作る。 ・人員が居れば他の職員に依頼できる。

**【考察】**

2 名からの回答があり、自分で時間を作って業務外のことに対応したり、他の職員にお願いしたりと工夫しながら業務にあたられていることから施設でもシャドーワークはあるのではと考えます。実際に、施設のシャドーワークとは具体的にどんなことがあるのか調べてみるのも良いのではないかと考えます。

**Q24 今後もシャドーワークは、必要と思いますか。**

**【結果】**

「はい」 2 名 「いいえ」 1 名

**【考察】**

シャドーワークは必要だと答えた方が 2 名、「いいえ」と答えた方が 1 名で、半数以上が必要だと回答しています。この結果から、施設でもシャドーワークは必要であると考察されます。

**Q25 Q24 で「はい」と答えた方の理由は何ですか。（複数回答可）**

**【結果】**

2 名の回答 利用者が困るから 1 名 別に特別なこととは認識していない 1 名

**【考察】**



施設も居宅も利用者が困るからという社会福祉の考え方で、今後も必要と半数の方が回答されています。ただし、特別なこととは認識していないと半数の回答があることから、施設の介護支援専門員ならではの特性を活かしてケアマネジメント業務にあたっていると考えられます。例えば、利用者の近くで日頃の様子を観察することが可能で、入居者に寄り添って最適なプランを作成することができ、入居者との距離が近い分、信頼関係を構築しやすく、改善状況を自分の目でリアルタイムに確認できる等の利点があります。また、同時に介護・医療・リハビリなどの専門職種と協力して仕事に励むことができることから、自分の専門外の知識を身に付けることができるというメリットもあります。そして、資格手当の増額、夜勤手当、処遇改善など給与面も優遇されており、全国的にも施設の介護支援専門員の方が居宅の介護支援専門員より給与が高いとのデータもあることから施設の介護支援専門員のやりがいでもあり魅力だと考えられます。

### 3 介護支援専門員やりがい（共通）

#### Q26 介護支援専門員業務の「やりがい」を感じていますか。

##### 【結果】

118 件の回答 「はい」 97 名 (82.2%) 「いいえ」 21 名 (17.8%)

##### 【考察】

介護支援専門員業務にやりがいを感じている方が8割と多く、やりがいを持っているからこそ仕事を続けていると考えられます。また、「経験年数別のやりがいを感じているか」については、1年～5年の17名中「はい」13名76.5%、6～10年の21名中「はい」18名85.7%、11～15年の30名中「はい」26名86.7%、16～20年の30名中「はい」23名76.7%、20年以上の20名中「はい」17名85.0%の結果になりました。

#### Q27 どんな時にやりがいを感じていますか。

##### 【結果】

97 件の回答中、一番多かったのは、「利用者の問題が解決された時」87 名 (89.7%) 次に「利用者、家族から感謝された時」76 名 (78.4%)、次に「ケアプランの効果を感じた時」47 名 (48.5%) となっています。その他の意見として、「利用者の生活課題が改善した」「その人らしい暮らしができた」「ケアマネ同士のつながりを感じた時」「関わる事業所や関係機関と協力して問題が解決したとき」「仕事が継続できることが喜び」「お互いの関係性に気づきが発生し、自己肯定感が増えたことを感じた時」などの意見がありました。

##### 【考察】

やりがいを感じるのは、お金ではなく、利用者、家族からの感謝や課題が解決された時であり、責任感の表れだと思います。感謝されることは嬉しいものの、それ以上に辛いことも多いと思うので、「はい」の中に「いいえ」とも言える中間層がいるのではないかと考えます。

Q28 やりがいを感じない理由または、負担に感じていることは何ですか。

【結果】

21 件の回答中、一番多かったのは、「時間外や休日にも仕事のことを考えて気が休まらない。」と「更新研修費用、受講の負担」17 名（81%）、次に「休日や夜間帯の緊急時対応」と「独居高齢者の緊急時対応」16 名（76.2%）、次に「過剰な業務内容」14 名（66.7%）となっています。その他の意見として、「仕事を始めたばかりのため」「体調不良で休んでいても家族から電話がかかる。24 時間体制が辛いときがあった。」「給料を上げるためにケアマネになったのに現場の方が高くなった」「ケアマネジャーに対する国の対応」「業務に見合わない賃金」などの意見がありました。

【考察】

やりがいだけでは、穴埋めできない問題が多すぎると感じます。業務外の時間でも心身の拘束感や実際の対応が一番の負担となっており、さらに 24 時間帯制は、特定事業所加算のためとは思いつつも介護支援専門員にとって精神的にも体力的にも負担になっています。24 時間連絡体制のあり方を具体的に提示し、検討が必要だと考えます。また、更新制や更新時の費用や時間の拘束が負担となっており、介護支援専門員を辞める人がいるため、早急な改善が必要だと考えます。

Q29 プライベートでの気分転換の方法は何ですか。

【結果】

118 件の回答中、一番多かったのは、「趣味」72 名（61%）、次に「睡眠」66 名（55.9%）、次に「食事」61 名（51.7%）となっています。その他の意見として、「買い物、お出かけして気分晴らし」「気分転換しても、頭の片隅にいつも困難な対応をそうしたら良いのか考えており、夜眠れないことがある。」「女子会」「飲酒」「ペットと遊ぶ」などの意見がありました。

【考察】

オンとオフを上手に切り替え、仕事から切り離される時間は、絶対に必要です。特定事業所加算を算定していると、24 時間の連絡体制もあり、休みでも気が抜けない気持ちがあると感じます。忙しい時ほど無理にでも頭から仕事を切り離す事は大切なため、強制リフレッシュ休暇などの導入を検討する必要があると考えます。

Q30 介護支援専門員の高齢化が問題となっていますが、これからの若い人が職業として選択してもらうために何が必要と思いますか。

【結果】

118 件の回答中、一番多かったのは、「給料の増額」107 名（90.7%）、次に「更新研修の時間短縮、費用負担の減額」89 名（75.4%）、次に「業務量の削減」と「更新研修の廃止」となっています。その他の意見として、「今の更新制度では、期間の終了と

共に辞めようと思う人が多い。パートでも少し続けたいと思っても、更新費用や拘束時間を考えると続ける気にはなれない。では廃止すれば良いかと言うとそれもちょっと違う気がする。現役ケアマネの意見も取り入れて、丁寧な議論をして行くべき」「楽しさや、やりがいの宣伝」「若年層へのケアマネジャーの認知度アップ」「法定研修の実施場所」などの意見がありました。

**【考察】**

「仕事量に見合った給料の増額」や「残業や時間外の拘束なし」、「更新研修の時間短縮、費用負担の減額」を検討することと併せて、介護支援専門員としての「楽しさ」や「やりがい」をアピールし、知名度を上げるなどの方法を取らないと、近い将来、介護支援専門員はいなくなる可能性が高くなると思われます。早急に次世代につながる職業として選択してもらえらる対応が必要と考えます。

**Q31 今後も介護支援専門員を続けて行く予定ですか。**

**【結果】**

118件の回答中「はい」82名（69.5%）、「検討中」33名（28%）「いいえ」3名（2.5%）

**【考察】**

約7割が今後も介護支援専門員を続けて行くと回答しているのは、介護支援専門員の魅力ややりがいがあると評価できると考えられます。この魅力を積極的に情報発信していく必要があると感じます。また、年代別に見ると30代の8名中「はい」7名87.5%「検討中」1名12.5%「いいえ」0名、40代の31名中「はい」22名71.0%「検討中」9名29.0%「いいえ」0名、50代の46名中「はい」28名60.9%「検討中」16名34.8%「いいえ」2名4.3%、60代の30名中「はい」22名73.3%「検討中」7名23.3%「いいえ」1名3.3%、70代の3名中「はい」3名100%の結果となっています。

**Q32 「検討中」「いいえ」と答えた方の理由は何ですか。**

**【結果】**

36件の回答中、一番多かったのは、「精神的負担」24名（66.7%）、次に「更新研修の時間やお金負担になっている」23名（63.9%）、次に「年齢」19名（52.8%）となっています。その他の意見として、「更新研修の拘束時間がとにかく長い」「年齢もあり、更新してまで続ける気力がない」「他にやりたいことがあるから」「更新研修の方法を検討して欲しい」「社内での立場の変化」「業務が負担」などの意見がありました。

**【考察】**

約6割の方が「精神的負担」や「更新研修の時間や費用が負担」を感じて介護支援専門員としての職を終えようとしているとのこと。心身の負担が大きいことに加わり、更新要件の厳しさが介護支援専門員離脱に拍車をかけているように思われます。基礎職に戻った方が心身の負担が軽減できる上に給料も上がるなら基礎職に戻る方が多いと考えられます。これまで共に働いた仲間が少しでも残って貰えるような取組

みの検討が必要だと感じます。

### III まとめ

【回答者数】会員数 486 名のうち、118 名の回答があり、回答率は 24.3%でした。

【年齢】30代（8名）、40代（31名）、50代（46名）、60代（30名）、70代以上（3名）

【経験年数】1～5年（17名）、6～10年（21名）、11～15年（30名）、16～20年（30名）、20年以上（20名）

【地域】東予（49名）、中予（36名）、南予（33名）

【事業所】居宅（94名）、施設（3名）、地域包括支援センター（21名）から回答を頂きました。

在宅の介護支援専門員は利用者や家族からの期待が高く、業務の範囲を超えた支援が常態化している現状が目立ちました。介護支援専門員が考える役割と利用者・家族、行政、サービス事業所、医療機関等が求める介護支援専門員の役割に温度差があると推測されます。社会資源の不足や行政の対応の遅れにより、介護支援専門員が多くの役割を担っていますが、その負担が業務の圧迫や精神的な負担につながっていることが確認されました。介護支援専門員個々でシャドーワークの認識に差異があることも明確になりました。また、社会資源の不足も地域差がある結果から市町村単位での検討も必要と考えられます。今後は、地域資源の活用や他の機関との連携を強化し、業務の線引きを明確にする取り組みが重要であると考えられます。

施設の介護支援専門員は、ケアマネジメント業務に加えて介護などの兼務が常態化しており、負担が大きくなっている現状が確認されました。特に、残業や書類作成の遅れといった問題が生じており、「時間外勤務」や「業務の優先順位の見直し」をしながら対応している現状です。さらに、施設の介護支援専門員からの回答数が少ないことから、今後はよりいっそう施設の介護支援専門員にとっても魅力のある愛媛県介護支援専門員協会にしていく必要があると真摯に受け止めています。

やりがいでは、約7割が今後も介護支援専門員を続けていくと回答していることから、介護支援専門員としての誇りや魅力があるとも考えられます。残念なことに約3割が精神的負担や更新研修の負担が業務を続ける上での大きな壁となり、介護支援専門員の職を終えようとしていることが明らかになっています。特に「24時間対応」や「更新研修の負担」は早急な改善が必要と考えられます。今後は、給料の増額や業務負担の軽減と併せて、介護支援専門員の「魅力」や「やりがい」を積極的に発信することで、若い世代に関心を持ってもらい、職業としての選択肢として定着を図ることが重要と考えられます。

### IV おわりに

来年度も引き続き、「介護支援専門員のモチベーションを保つために」はどうすれば良いのか検証するために、業務の効率化（ICT）とハラスメントについてのアンケート調査、分析を行います。残念ながら、アンケートの回収率が低く、アンケート結果として、少人数の意見を集約しているため、データ自体の有効性に課題が残っています。今後も介護支援専門員にとって、有意義なアンケート内容になるように調査研究委員会で精査してまいりますので、引き続きアンケートのご協力をお願いします。

調査研究委員会			
		氏 名	所 属
東予	理事	石川 香織	居宅介護支援事業所四つ葉
	委員	鈴木 素子	四国中央市地域包括支援センター
		石川 友子	居宅介護支援事業所すいは
		佐々木 千穂	居宅介護支援事業所だんだん
中予	理事	小泉広美	松前町地域包括支援センター
	委員	武知 慎也	久万高原町地域包括支援センター
		森 さゆり	松前町社会福祉協議会
		丸木 祥道	居宅介護支援事業所ルクス
南予	理事	森長 寿幸	指定居宅介護支援事業所 フレンド
	委員	高平 智恵美	鬼北町社会福祉協議会
		保積 ちほ	大洲市在宅介護支援センター フレンド
		稲井 美紀	居宅介護支援事業所 うちこ園

※このアンケート調査の結果及び考察を引用される際には当協会まで連絡ください。